館報たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,765人
男子	3,324人
女子	3,441人
世帯数	2,074戸

（12年5月末現在）

心豊かな地域づくりをめざして
知りあって 触れあって 学びあおう
公民館委員総会

去る四月二十八日、竜丘公民館の委員総会が、委員多数出席の中で開催され、今年度の基本方針、事業計画、予算などが承認され力強くスタートしました。また会議に先立ち、長年にわたり公民館活動に尽力された方の表彰も行われました。

公民館長　木下陸奥

平成十二年度の公民館各種委員会組織並びに事業計画が、去る四月二十八日の総委員会で確認されて、力強く発足できたことはありがたいことであります。

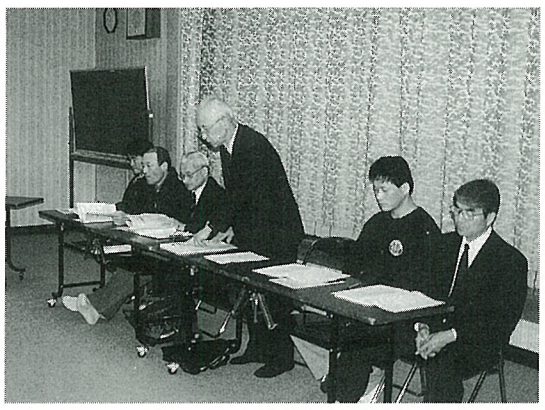
既報されていますように新公民館の建設もいよいよ着工の運びとなりました。

次代を担う若者たちに、住みよくて暮らしよい『竜丘』を発展させてつなげるために、私たちは地域づくりをめざしての公民館活動を一層充実したものにしていかなければなりません。

今年度も『心豊かな地域づくりをめざして、知りあって、触れあって、学びあおう』をスローガンにして進めてまいります。

隣組から地域へと人々の『和』をつながる体育的活動、竜丘の豊かな自然・文化に触れ合って学んでいく文化的活動。更には、各種サークル・クラブ活動の振興。そして、子どもたちを仲間にいれた触れ合い活動などを積極的に推進してまいります。

従来から竜丘の公民館活動は、公民館委員の皆さんの熱心な参加と地域の方々のご協力で進められて、それが地域発展の何よりの力となっております。本年も一層のお力を寄せてくださいますようお願いします。



基本方針を提案する館長

文化委員長　牧内裕幸

「地域住民の交流と学習の場を企画実施し、より良い地域づくりを目指す」を基本方針として事業を計画しました。

本年度は特に、「村のみちしるべ」を活用し、竜丘の自然・文化・人とふれあえる機会として体育部と合同でハイキングを春と秋の二回計画しました。どの事業でも、各分館と連携を取りながら、また、地区内の各種団体、グループ、個人で活動されている方々とも交流を持ち、より多くの方が集い、楽しみ、知ってふれて学びあえる事業にみなさんの手をおかりして盛り上げていきたいと思います。是非、みなさまのご協力をお願いいたします。

体育委員長　安東雅行

竜丘公民館の基本方針に基づき、「スポーツを通じて、地域住民の親睦交流と健康の維持増進を図り、活力ある地域づくりにつなげる」を活動方針として、事業を計画しました。事業の実施にあたっては、分館活動と密接な連携を保ちながら、子どもを含めた多くの地域住民が参加し、楽しめる企画運営をするとともに、ニュースポーツの普及につとめる等、地域の社会体育活動が活発化するような働きかけを行います。

事業内容は、前年度のものを更に充実させるとともに、新しく体育委員の研修の場として、ストレッチ体操（エアロビクス）の講習会を企画しました。各事業、明るく楽しく、親子が触れあい、地域住民相互が触れあえる事業にしていきたいと思います。より多くの人たちが参加して体育事業を盛り上げていただきますようお願いいたします。

民俗資料保存委員長　牧内利郎

本年度の活動の重点として、石造文化財について、八年前から調査累積してある資料をまとめの方向で取り組んでいきます。

急速に変容する地域の実情に鑑み、大切な文化遺産を埋もれさせないためにもできるだけ資料を収集し記録、保存するとともに、後世に語り継いでいきたいものです。

更に委員会として今一点は、新公民館が完成の折には、竜丘の産業や文化遺産など、展示するコーナーに、一目で歴史的民俗の変遷が理解できるような資料を掲げることを目指し、今年度の課題として取り組んでいきます。

広報委員長　増田正昭

広報委員会では「館報たつおか」を今年度も五回発行を予定しています。

公民館活動を地域に伝達することを主に、地域課題や、生活課題についても問題提起し、広い層によみやすく親しまれるような紙面を作っていきます。

今年度は、新公民館建設についての進行状況を随時伝えていけるよう、より地域に密着した取材活動をし、正確な内容を紙面にのせていけるよう取り組んでいきます。

みなさんも身近な話題、疑問、ちょっとした出来事でもかまいませんので、どしどし広報委員会までご連絡をお寄せください。

平成12年度　竜丘公民館委員名簿

館長　木下陸奥

	文化委員会	体育委員会
委員長	牧内裕幸	安東雅行
副委員長	伊東正直	林洋一
駄科	牧島宏泰	今村寿男
	関島敏彦	澤柳実也
長野原	瓶田境	坂本道秋
	前沢一彦	大蔵精之
時又	久保田清	小木曽俊
	佐藤賢次	清水美次
桐林	中島利夫	下平泰司
	牧之内久夫	我科幸彦
上川路	田中実	塚平茂
	塚平学	塩沢恵治
協力員 運営委員	伊藤公夫	野上隆
	岡村巧	久保田文男
	久保田清寛	

	広報委員会	民俗資料保存委員会
委員長	増田正昭	牧内利郎
副委員長	橋爪辰彦	下平隆司
	中田信和	塩澤岩恵
委員	下平恒男	林直人
	塚平賢志	関島毅
	代田勇	今村文一
	林健吾	山田安美
	中島昌子	木下和子
	今村篤子	今村周巳
	原美佐子	山田勝
	下平千俊	牧内保夫
	齊藤浩	林正巳
		久田誠
		河井篤子
		今村春子
		今村悦夫

	分館長	分館主事
駄科	上松昌弘	木下可楽
長野原	小林泉	小林聖
時又	下平威彦	福島捷吉
桐林	古見山直守	熊谷健治
（副）	原晃一	
上川路	関島賢一	小室勝信

	体育指導員
飯田市	鈴川格
飯田市	原田照子
駄科	新井文明
時又	太田英幸
長野原	今村公市
桐林	鈴木運友
上川路	清水美彦

運営審議会
田中興
伊藤安正
中島武津雄
原寛
清水彬夫
下平一郎
林正直
下平隆司
前沢喜代美
宮嶋聰子

監査委員
塚平正廣
上條海八郎

本館主事
砂場幹雄

企画会議
各委員会正副委員長、正副分館長・主事、青年会代表
◎議長　関島賢一　☆青年会　中村貴洋

表彰

長年の公民館活動の功績に対し、平成十二年度の竜丘公民館社会教育功労者として、四名の方々が表彰されました。大変お世話になりました。

関島　直彦 さん（駄科）
竜丘公民館運営審議会委員
平成八年～十一年
通算四年

吉澤　敬 さん（長野原）
竜丘公民館運営審議会委員
平成九年～十一年
通算三年

塩澤　隆 さん（駄科）
文化副委員長　平成七年
文化委員長　平成八年
文化協力員
平成九年～十一年
通算五年

牧内　弥美 さん（旧姓原田）（長野原）
広報委員
平成三年～十一年
通算九年

ヤブ蚊

最近のテレビのニュースと言えば、少年犯罪の悲しいニュース。

記憶に新しい事件と言えば、佐賀県のバスハイジャック事件、愛知県の主婦殺害事件。どちらも十七歳の犯行だ。動機はまだはっきりしていない様だが「マスコミを賑わしたかった。」「人を殺す経験をしたかった。」など、普通ではとても考えられない言葉が出て来たのだ。

今の子どもたちの中にはテレビゲームやパソコンにのめり込み、その中でしか自分を表現できず、親にも先生にも友だちにも心を割って話す事ができないままどんどん自分の世界に入って行ってしまうケースが多いらしい。だからと言ってどの子どももそうばかりではない。困っている友だちに声を掛けたり、悩みを話し聞き合ったりしてあげられる子どもだっているにちがいない。

前記の事件に関してその親は「自分の子を説得する自信がないので…。」とあった。自分の子どもであっても考えている事、行動にしても理解できないと言うらしい。でも自分の子どもを朝から晩まで監視している訳にはいかない。だから常に子どもと目と目、心と心、体と体で話をする事に心がけたいものです。ある日の新聞に同じ十七歳の女の子の記事が載っていた。「子どもの変化を探し出して、反抗するから近づかないでおこうとする考えは捨てて、できる限り見守り、親は子どもに責任を持って欲しい。」とありました。

私も子どもを持つ親として、忙しい中でも子どもと向き合い会話する時間を多く持ちたいと思いました。

ふるさとに熱い想いを「東京竜丘会」

遠く郷土を離れている方々の集う「東京竜丘会」が、開かれました。地元駄科から参加した子どもたちの獅子舞や鈴岡太鼓も披露され、会場の雰囲気に華をそえました。

五月十四日（日）に、竜丘出身者で東京はじめ関東に在籍している方々の親睦交流会『東京竜丘会』が、約百九十人が参加して東京市ヶ谷アルカディアで開かれました。

例年のように、地元竜丘から自治会を中心とした代表者の二十五名が参加しました。なお当日は、駄科出身でこの春の叙勲で勲三等瑞宝章を受章された、木下長志さんの祝賀会が併せて行われたので、駄科の鈴岡太鼓の方々、子ども連十三人を含め二十八人が参加しました。

祝賀会に先立って、総会があり、『東京竜丘会』の事業報告・会計報告・役員の選任などがありました。

その席で、木下公民館長が、竜丘の移り変わる現状、地区民の拠点となる公民館が小学校の隣前の原地籍に建設されることになった経過と現状を話されました。

そして地区民がよりよい公民館の施設充実のため基金を集めており、今回、東京竜丘会の皆さんにも、ぜひ郷里竜丘のため寄附をお願いしたいと話されました。

総会に引き続いて、木下長志さんの祝賀会に移りました。地元自治協議会原寛会長が地元を代表してお祝いを申し、尾林焼き水野英男さん作の逸品『凌ぎ花瓶』を差し上げました。

飯田市田中市長が、飯田市に多大の貢献をされた木下さんに祝辞を申し、特に飯田市の将来ある子どもたちのために『長志育英会』を創設し、すでに四千万円にもその額が達していることをはじめ、地元への数々のご厚志を紹介し、木下さんの郷土へ尽くされた業績を讃えられました。

余興として、地元子どもたちを含める駄科下平の獅子舞いと、鈴岡太鼓が披露されると、会場からは盛んな拍手が上がり、ひとときを感動と驚嘆が場内を渦巻きました。

終わりに、木下さんから謝辞が述べられました。特に郷土を離れて、苦しい中で事業を起こし、成功に漕ぎ着けたこと。今回の受章は、郷土で育てられた教育や人々の支えがあってのことであると言われました。

そして、今の私があるのは、郷土あってのこと、私の脳裏には、竜丘のことや飯田のことが、片時も離れることができないと結ばれました。

会場は、一瞬深い感動と歓喜に包まれるなかで「竜丘小学校校歌」「信濃の国」が高らかに斉唱されて幕を閉じました。

遠く郷土を離れている方が、どのくらい郷土に想いを寄せられておられるかを膚で感じ、私どもが地域で何を成さなければならないかの思いを強くした一日でありました。

駄科・下平の獅子舞が祝舞

環境産業公園生まれる　治水土取場跡地に

治水対策工事により桐林の山の土で時又島地区・上川路の一部を埋め立てました。その土は、七十八万立方メートルという膨大なもので、一つの山がなくなり平らな土地が生まれました。

この土地をどのように活用するかは、地域住民の関心の一つでした。そこで、地域の人々の強い要望と行政の助言により、この平らな約七ヘクタールの土地を、「環境産業公園」と名づけ活用することになりました。

環境産業公園には、第一期工事（約四ヘクタール）でペットボトルリサイクル工場㈱アース・グリーン・マネジメント）と新聞古紙リサイクル工場（エコトピア飯田㈱）の二社が、建設され既に操業しています。

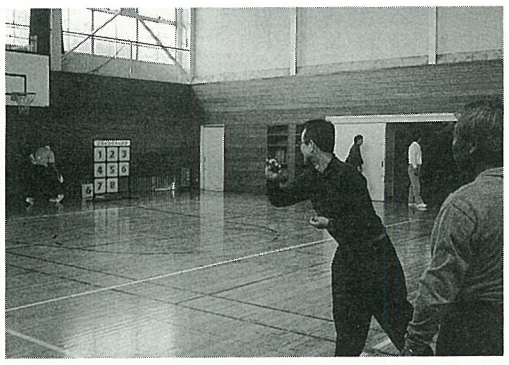
どちらの工場も環境学習の場として工場を視察出来るように開放されていて、回収された物がリサイクルされていく状況が実際に学習できます。

このように、桐林の山が形を変え生まれ変わってしまいました。以前のような草花や虫や動物たちの住みかを、取り戻すためには自然環境作りに努力がいります。小学生が、どんぐりの種を蒔いたり、木々の植林をしました。地域も行政もともに活動していきたいものです。

楽しくいい汗かいたニュースポーツ

去る五月二十日に、Cブロックニュースポーツ交流会が行われました。当日は五十二名と多くの参加者があり、『グランドゴルフ』、『フライングディスク』、『キンボール』の三種目が行われました。

今回の交流会で一番盛り上がったのは、『フライングディスク』です。これは軽いプラスチックのディスク（円盤）を、空中に投げてプレーするニュースポーツで、知っている方も多いと思いますが、初期にはフリスビー（商標名）という名で、原っぱの遊びとして親しまれていました。この一枚のディスクがあれば、空気をチームメイトに誰もがプレーヤーになれるスポーツ。それがフライングディスクなのです。


フライングディスクを体験する参加者

公式競技としては九種類ほどありますが、今回はガッツとアキュラシの二種類が行なわれました。ガッツは一チームを五名で編成するチーム競技で、投げたディスクをキャッチして得点を競うゲームです。又、アキュラシは個人競技で、ディスクのコントロールの正確性を競うゲームで、どちらも手軽に楽しめるのが特徴です。

ニュースポーツとは、一工夫することで手軽に、年齢を問わず若者から高齢者を含めだれもが楽しめますので、地域の活動にはうってつけです。皆さんも機会があればぜひやってみませんか。

第5回 新緑の高野を歩く 親子ふれあいハイキング

親子で歩いて健康づくりをしながら、竜丘地区内の自然や歴史、文化に親しもうと「第五回親子ふれあいハイキング」が去る五月二十七日総勢八十名ほどの参加者が集い楽しい一日を過ごしました。

今年のテーマは「歩いて竜丘を知ろう！上川路高野自然歩道散策」ということで、新緑のコースを歩き、地域の文化遺産や草花、昆虫などの生き物について観察しながら、歩こう会（原田忠治会長）、古墳を考える会（下平隆司会長）、伊那谷自然友の会（塩澤義男さん）など、地元の方々を講師に迎え、道すがら説明を聞きながらウォーキングを楽しみました。

当日は、開善寺で橋本玄樹住職の話を聞き、高野方面へと出発、竜丘で唯一の道祖神を見たり、昔なつかしい草笛をつくり子どもたちに教えるなどまさしく「ふれあいハイキング」といった光景も見られたりと和気あいあいと山道を登り地区最高地点、標高五六五メートルの三角点を見学し、休耕田を利用した水棲生物のビオトープ、「ネムの木・信夫園」へと到着しました。

園内では、管理をされている井口正三さんの説明を聞き、昔の面影が残る水田風景のなか、メダカ、ミズスマシ、ヤゴなどの観察を行ないました。子どもたちは、日頃滅多に見ることのないイモリやゲンゴロウを、恐る恐る手に取って歓声を上げていました。

昼食は、天竜川が一望できる高望庵で、適度の運動とおいしい空気の中とあって味も格別なものでした。

山を下り最後は馬背塚古墳の石室を説明を聞きながらの見学。始めは暗闇にこわがっていた子どもたちも、石室の歴史と大きさに心をひかれているようでした。

参加者は、多くの人たちともふれあい、楽しく満足な一日でした。

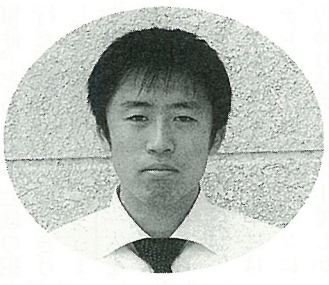
興味深く水棲生物を観る参加者たち

人事

支所長　木下巨一

前職の教育委員会時代から、地区の皆様には大変お世話になっています。竜丘には現在、大きな課題やプロジェクトが山積していますが、皆様にご指導いただきながら、支所長としての任を務めてまいりたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

治水竜丘駐在員　岡本大輔



三月より治水竜丘駐在員としてお世話になっています。事業も着々と進み、皆様と協力し合い、完成に向け努力したいと思います。

転出

○今井正治さん（支所長）まちづくり推進室長

○松村健悟さん（治水竜丘駐在員）退職

お世話になりました。